



14人がたたき出す太鼓の響きに、600人の観客が聴き入った。(亀居城太鼓の練習日：毎週木曜日夜 旧小方中体育館)



毎年舞台で力強い演奏を披露し、まつりを支え続けてきた。
「大竹の歴史を知らない」と薄っぺらい演奏になる。亀居城400年の歴史、長州の役などを思い描きながら練習に励んでいる。今も現役の中川さんが太鼓に向き合う姿勢だ。
「高齢化などでメンバーも減って苦しい時期もあったが、近年若い世代のメンバーも加入してくれている」と言いつつ、今後どう引き継いでいけるかが課題だともいう。
大竹の太鼓グループの草分け的存在の亀居城太鼓。歴史を奏でる太鼓が、アゼリアホールに轟いた。

今日の目を迎え中川会長（左上）は感謝の言葉を述べた。亀居城太鼓が指導してきた知的障害者の親子でつくる『ともしび太鼓』、大竹祭で雄姿を披露している『安芸大瀬太鼓むすび衆』、亀居城まつりで共演してきた『DANCE G. Pure Drops』も出演。師匠の天野氏（故人）との縁で山梨から駆け付けた篠笛と和太鼓のプロ『宗派鼓樂 伊香』（左）も圧巻の演奏で華を添えてくれた。



「感激しました」。目を潤ませたという木谷信子さん（中央 黒川）と大橋好江さん（右 御園）は、惜しめない拍手を送る。

11月19日、アゼリアホールに太鼓の音が響き渡った。亀居城太鼓が結成40周年を迎えたことを記念して開かれたコンサートだ。
亀居城太鼓は昭和58年（1983年）に、その産声を上げた。この年、亀居公園で第1回「桜まつり」が開催されるのに合わせ、「太鼓で盛り上げよう」と、急きょ前年の10月に話が決まった」と会長の中川忠さん（85歳 玖波）は振り返る。そして世界的な和太鼓奏者、天野宣氏に作曲を依頼し指導を仰いだ。その楽曲が、今もメインで演奏する『組曲 亀居城太鼓』である。4月に迫る「桜まつり」を前に連日連夜の猛特訓。何とか舞台に立つことができた、昨日のこのように語る中川さんだ。
以来40年、「桜まつり」は「亀居城まつり」と名称を変えながらも、

亀居城太鼓

40周年記念コンサート

「昭和・平成・令和」時代を超えて轟け！

